

ありがとう

わが母校

佐伊津中学校



閉校式後に懐かしい写真を見る
卒業生の皆さん

昭和24年、佐伊津中学校に入学する。当時はまだ校舎もなく、小学校の東端1階と2階、旧公民館を借りて勉強をしていた。公民館には廊下の外窓がなく、雨の日には走って移動をしていた。24年に全校生で瓦運びをした記憶がある。今の信号機の近くに瓦工場があり、校舎まで瓦運びをはじめ、重くていつの間にか、向かい合いに並び手渡しをしていた。1回目の同窓会で瓦運びの話が出て、誰か

の提案で会名を「瓦会」とする。昭和25年、2年の時、新校舎に移転する。校舎の前は塩田の跡がそのまま放置されていた。鍬とツルハシでセメント枠を掘り起こし、東の端まで運ぶなど、整地作業がほとんど毎日続いた。先輩の3年生が兵舎前の蘇鉄を掘り下げ、玄関前まで運んで、植える時は私たちも手伝い、美術の先生の指導で植えつける。60年前のことを思い出して書きました。



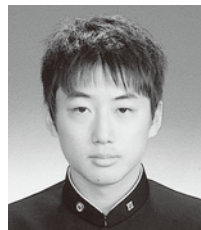
「瓦会」

昭和26年度卒業生

山崎

董

本町中学校



ハンドボールとの出会い

平成21年度卒業生

岡部 有哉



閉校式で閉校記念碑の除幕を行うようす

「ビー」とホイッスルが鳴り響き、僕の中の学校生活最後のハンドボールの試合が終わった。無我夢中で戦ってきたので、気がつくとも50分という時間があっという間に過ぎていた。平成21年7月25日、天草工業高校で行われた県中学校総合体育大会の2回戦で、僕たち本町中は全国3位の実績がある玉名中と対戦し、13対25で負けた。僕は、この時に経験したことのない程の悔しさを感じた。

部活動は、楽しいことよりも辛く苦しいことの方が多かった。しかし、先生やコーチの熱心な指導と練習している部員の姿を見て、先輩たちの果たせなかった九州大会出場を目ざすようになっていた。僕の中学校生活は魚住先生への憧れからハンドボールと出会い、学んだことが大きい。そして、何よりもその楽しさを教えてもらったことである。帰る母校のない最後の卒業生だが、心の中には本町中学校がしっかりと刻まれている。

佐伊津中学校



本町中学校



本渡中学校



昭和22年に開校した本渡中学校、佐伊津中学校、本町中学校が統合により、3月31日で63年の歴史に幕を閉じ、これまでに3校あわせて27,156人の卒業生が学舎を巣立っていきました。

そこで、部活、生徒会の思い出、そして校舎の瓦運びの思い出など、3校の卒業生の皆さんに思い出をつづっていただきました。

本渡中学校



本中がくれた、私の宝物

平成元年度卒業生

井上 美奈



閉校式で校歌を合唱する生徒たち

本渡中学校を卒業して20年、久しぶりに卒業アルバムを開いてみました。そこに、私の大切な仲間の笑顔が輝いていました。思い起こせば、時代が昭和から平成へと移り変わる大きな節目のときで、私たちは平成となって初年度の卒業生でした。

学校での思い出は、友だちどうしで外出する際、今では当たり前のようになっている私服着用を当時は禁止されていましたので、生徒会を中心に先生方と話し合いを重ね、本渡中学校を卒業して20年、久しぶりに卒業アルバムを開いてみました。そこに、私の大切な仲間の笑顔が輝いていました。思い起こせば、時代が昭和から平成へと移り変わる大きな節目のときで、私たちは平成となって初年度の卒業生でした。

学校での思い出は、友だちどうしで外出する際、今では当たり前のようになっている私服着用を当時は禁止されていましたので、生徒会を中心に先生方と話し合いを重ね、本渡中学校を卒業して20年、久しぶりに卒業アルバムを開いてみました。そこに、私の大切な仲間の笑顔が輝いていました。思い起こせば、時代が昭和から平成へと移り変わる大きな節目のときで、私たちは平成となって初年度の卒業生でした。